

「サムライのおしゃれ—印籠・刀装具・風俗画—」
2023 年 6 月 17 日(土)～7 月 30 日(日)

静嘉堂文庫美術館のコレクションには、武家文化の日常生活の中ではぐくまれたサムライの装身具である刀装具、提げ物の印籠根付の優品が豊富です。こうした近世の美術工芸品は、海外では浮世絵と同じく日本を代表する美術品として高く評価され、明治期以降、ネクタイピンやカフスボタンのようなおしゃれな品として、世界中の愛好家に愛玩、蒐集されてきました。本展では、こうしたいわば“サムライのおしゃれ”を御覧いただくとともに、おしゃれな江戸時代の人々の様子を生き活きと描いた、近世初期風俗画なども併せてご紹介いたします。また、このたび静嘉堂で発見された、岩崎彌之助の義父・後藤象二郎が 1868 年に英国ヴィクトリア女王から拝領したサーベルを初公開いたします。

【開催概要】

- 会 期：2023 年 6 月 17 日(土)～7 月 30 日(日)
- 会 場：静嘉堂@丸の内(明治生命館 1 階)
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治生命館 1 階
- 休 館 日：毎週月曜日(ただし 7 月 17 日(祝)は開館、7 月 18 日(火)休)
- 開館時間：午前 10 時～午後 5 時(金曜は午後 6 時まで)※入館は閉館の 30 分前まで
- 入 館 料：一般 1,500 円 大高生 1,000 円 中学生以下無料
- 問い合わせ：TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)
- ホームページ：<https://www.seikado.or.jp>
- twitter：@seikadomuseum
- 主 催：静嘉堂文庫美術館(公益財団法人静嘉堂)

<本展のみどころ>

- ① 新発見！後藤象二郎が英国ヴィクトリア女王より
拝領のサーベルを初公開<撮影可能です！>
- ② 静嘉堂所蔵の江戸時代の印籠・刀装具を精選
- ③ 近世初期風俗画に見る“サムライのオシャレ”に
フォーカス
- ④ 貴人たちのオシャレの世界



【みどころ①】 新発見！後藤象二郎が英国ヴィクトリア女王より拝領のサーベルを初公開



広報画像1
「サーベル形儀仗刀」
後藤象二郎拝領
C,SMITH &SON 社
1868 年

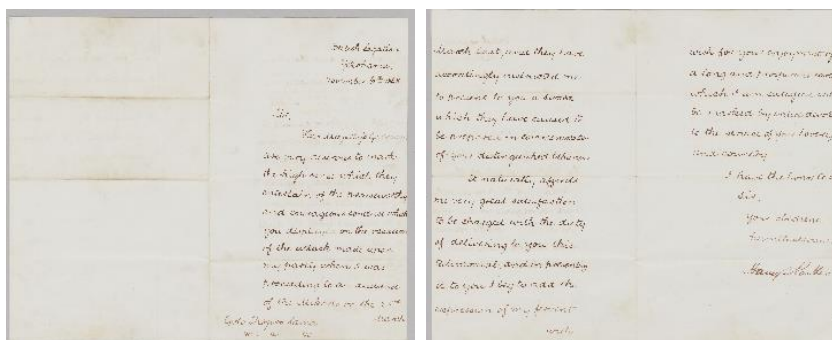
永らく行方不明とされてきた後藤象二郎拝領のサーベル(1868 年ロンドン製)が、東京世田谷の静嘉堂で発見されました。

1868 年 3 月 23 日、京都で明治天皇に謁見しようとする英国公使ハリー・パークスを 2 人の攘夷派志士が襲撃する事件が発生。日英両国の護衛を加え千人を超す英国公使の隊列は、急襲され混乱に陥りましたが、新政府の接待係、土佐藩士 後藤象二郎と薩摩藩士 中井弘の奮戦で暴漢は討ち取られ、パークスは無事でした。英国側負傷者は 10 名余り。犯行に及んだ攘夷派志士のうち一人は即死、一人は逮捕後斬首され、「最後の攘夷事件」ととなりました。パークスは 3 日後に明治天皇との謁見を無事に済ませます。新政府からの謝罪と補償提案に対して英国側は不問とし、近代日英外交の第一歩となりました。そして、英国ヴィクトリア女王(在位 1837～1901)から護衛に対する感謝のしるしとして後藤、中井にサーベルが贈られました。【サーベルを展示するGallery1は撮影可能です！】



広報画像2 サーベル 銘 部分
3 月 23 日の襲撃事件での奮戦を記念する
後藤象二郎あての贈答である旨の英文が彫り込まれている
PRESENTED TO GOTO.SHOJIRO
IN MEMORY OF THE 23RD OF
MARCH, 1868"

後藤に贈られたサーベルは、1914 年刊行の『伯爵後藤象二郎』(大町桂月著、富山房)に写真や事件の顛末などが掲載されて以降、現在まで所在不明でした。静嘉堂文庫の創設者である岩崎彌之助と後藤の長女早苗の結婚により、彌之助にサーベルが継承されたと考えられます。



拝領当初の収納箱と 2 通の日英文書(1868 年)も付属し伝来経路が明瞭である点、保存状態も良好である点などから、明治維新、近代日英外交史上、歴史の転換期の史料として大変貴重です。

広報画像 3 英国公使パークス書状 後藤象二郎様宛 1868 年 11 月 6 日

ちなみに中井が拝領したサーベルはその後、娘婿の元首相・原敬が所有し、1936 年恩賜京都博物館(現：京都国立博物館)に寄贈されました。岩崎彌之助は、後に京都府知事となった中井弘が計画する第 4 回内国勸業博覧会を支援し、東西の日本画家の屏風の競演を実現させることになります。

【みどころ②】 静嘉堂文庫美術館が所蔵する江戸時代の印籠・刀装具を精選



広報画像4(左) ^{いしぐるこれよし} 石黒是美「花鳥図大小鐔三所物」江戸時代・19世紀



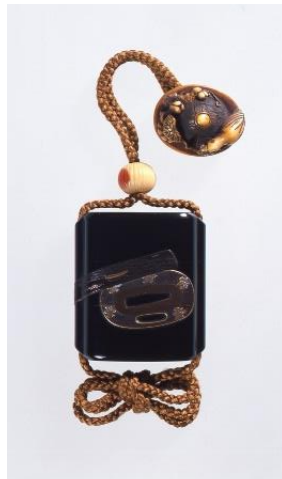
広報画像5(右) ^{つばみところもの} 「藤丸 写合口 拵 (長船兼光脇指付属)」明治時代・19世紀

江戸時代、「士農工商」の身分制度のなかで、大小の刀を腰にさすことは、武士の特権でした。朱塗や金色のきらびやかな鞘の装飾は平和な時代になるとすたれ、黒に統一されます。江戸城はじめ殿中の勤務では大刀を預けても、小刀は常に腰に帯びました。サムライのおしゃれは深い光沢の漆黒の艶に凝る結果となり、江戸時代の黒漆塗りは大きく発展したのです。

海外からも日本の黒漆塗は羨望の的となり、ピアノの黒塗は日本刀の鞘塗りに触発されたといわれます。刀装具のうちの拳を守る鐔やペーパーナイフのような小柄などの細かな金工も発展しました。鉄や銅を地金として、彫刻や象嵌、あるいは薄い金などの板を着せ付ける色絵といった様々な装飾技法が発展しました。江戸時代の刀装具の意匠は、ネクタイピンやカフスボタンのように、サムライたちのおしゃれを示す代表となり、富裕な町人の間にも広まりました。



広報画像6
^{はらようゆうさい} 原羊遊斎「雪華蒔絵印籠」
根付:雪華文鏡蓋
江戸時代・19世紀



広報画像7
^{しばたぜしん} 柴田是真「刀装具蒔絵印籠」
江戸時代・19世紀

印籠とは、腰に提げて中に常備薬を携行する道具です。近世初頭に海外からもたらされた袋物が始まりですが、江戸時代に大きく発展しました。本来の用途からは離れ、腰に提げるおしゃれな装飾品として、男性の必需品となりました。将軍や大名も自分の好みの意匠や材質で花鳥風月、四季草花、故事人物などを描かせ、印籠蒔絵師という専門職が生まれました。落下防止のため帯に通す先端部分の根付、印籠と根付の間で緒を締める緒締の専門の職人も生まれ、技術や意匠を競いました。江戸の街には、サムライのおしゃれアイテムを手掛ける工房が次々に花開いたのです。

将軍や大名たちは、各家の伝来の由緒のある茶の湯道具や美術品とは違い、個人の好みを自由に反映した日常品である印籠を注文製作して、贈答や交換をしました。中には個人で数百個の印籠を使用目的ではなく蒐集愛玩する大名もあり、近代以降現代まで、印籠はコレクターズアイテムとなります。静嘉堂文庫美術館には、揃いの箱に収まる276個の印籠コレクションがあり、本展では選りすぐりの優品を紹介します。

【みどころ③】近世初期風俗画に見るサムライのオシャレにフォーカス



広報画像8 重要文化財「四条河原遊楽図屏風」江戸時代・17世紀（右図は部分）

桃山～江戸時代初期(16世紀後半から17世紀前半)にかけ、上方を中心に「近世初期風俗画」と呼ばれる、庶民の生活が主題となった屏風や襖絵が誕生します。重要文化財「四条河原遊楽図屏風」はその代表的作品で、等身大の人間模様が生き活きと描かれています。歌舞伎者と呼ばれるオシャレな風態をした人、遊女や若衆らがファッションリーダーとして登場し、老若男女がそれぞれのオシャレをして描かれます。

【みどころ④】貴人たちのオシャレの世界



広報画像9
重要文化財
かつこさいか もみじのが みつだえ
「羯鼓催花・紅葉賀図密陀絵屏風」
桃山—江戸時代・17世紀

片隻には唐の玄宗皇帝・楊貴妃にちなむ逸話。皇帝が着飾った楽師たちの揃う前で、羯鼓^{かつこ}を打ち鳴らすと木々の花が一斉に開いた吉祥の逸話の瞬間が描かれています。一方は、『源氏物語』紅葉賀の一場面で、美青年・光源氏と頭中将が御所で青海波の舞を披露すると神のような美しさとたたえられる、『源氏物語』の中でも最も祝福性の高い帖です。舞い姿には、鞆の先が見え、太刀を佩いていることが分かります。漆と油彩の一種である密陀絵を複合して、性質の違う材料を使用して、人物の肌色や白い花をあらわしています。

その他、当館を代表する国宝「曜変天目(稲葉天目)」も展示致します。

【報道に関するお問い合わせは】

◆静嘉堂文庫美術館 広報事務局(共同 PR 内 担当:三井)

※在宅勤務も増えているため、メールでいただけると助かります。

E-mail:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp / TEL. 03-6264-2382

〒104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 銀座松竹スクエア 10F

◆静嘉堂文庫美術館 E-mail:press@seikado.or.jp(広報担当:大森)

E-mail:seikado-pr@kyodo-pr.co.jp
静嘉堂文庫美術館 広報事務局行(共同PR内 担当:三井)

「サムライのおしゃれ—印籠・刀装具・風俗画—」 2023年6月17日(土)～7月30日(日)
静嘉堂文庫美術館(静嘉堂@丸の内)
【広報作品画像データ申請書】

展覧会の広報を目的として本申請書にてご申請いただいた記事・番組に限り、本展の広報用画像の使用が可能です。本展の会期中であっても別の記事・番組への転用はできませんので、その際には改めてご申請をお願いいたします。ご使用可能期間は本展会期終了までとなります。また、掲載に際しては、下記注意事項をご確認いただくとともに、本展終了後、データは速やかに破棄・削除してください。必要事項をご記入の上、E-mailでお申し込みください。E-mailでの送付が難しい場合、FAXでお申し込みください(FAX:0120-653-545)

<画像使用全般に関する注意>

- 展覧会名、会期、会場名などの開催概要のほか、**指定表記、作家名、作品名、制作年**を必ず掲載してください。**所蔵元はまとめて1か所ご記載ください。**
- 作品画像は全図で使用してください。原則として文字を重ねる、トリミングなど画像の加工・改変・部分での使用はできません(屏風作品で右隻のみ、左隻のみの掲載や工芸品などでの画像背景を削除するなど可能です)。雑誌の表紙などへの使用をご希望の場合は広報事務局までお問い合わせください。
- 概要など確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で広報事務局までお送りいただきますようお願いいたします。
- 掲載・放送後は必ず、掲載誌・同録DVDを本展広報事務局へ1部ご送付願います。

希望	NO.	指定表記・作家名・作品名/画像資料名	制作年/制作年代	所蔵元/画像提供元
	1	「サーベル形儀仗刀」 後藤象二郎拝領 C,SMITH &SON社	1868年	静嘉堂文庫美術館蔵
	2	「サーベル形儀仗刀 銘」(部分) 後藤象二郎拝領	1868年	静嘉堂文庫美術館蔵
	3	「英国公使パークス書状」 後藤象二郎様宛	1868年11月6日	静嘉堂文庫美術館蔵
	4	石黒是美「花鳥図大小鐔三所物」	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	5	藤丸写合口拵(長船兼光脇指付属)	明治時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	6	原羊遊斎「雪華蒔絵印籠」 根付:雪華文鏡蓋	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	7	柴田是真「刀装具蒔絵印籠」	江戸時代(19世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	8	重要文化財「四条河原遊楽図屏風」	江戸時代(17世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	9	重要文化財「羯鼓催花・紅葉賀図密陀絵屏風	桃山－江戸時代(17世紀)	静嘉堂文庫美術館蔵
	10	ポスタービジュアル		

ご住所	〒			
社名/媒体名	社名		媒体名	
ご所属/ご担当者名	ご所属		ご担当者名	
TEL/FAX	TEL		FAX	
E-mail				
掲載号／ 発売予定日	月号(月 日号)／ 月 日発売予定 (発行部数 部) ☐ WEBへの転載あり			
チケット プレゼント	☐ 読者プレゼントを希望する ※プレゼント内容・数量に関しては別途ご相談となります。 応募、当選者選定、発送は貴社でお願いできればと思います。編集部で対応できない場合は広報事務局までお問い合わせください。			
チケット 送付先	※上記ご住所と異なる場合は記載をお願いします。			